

持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議

UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development (ESD)



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Education for Sustainable Development 2014
World Conference, Aichi-Nagoya (Japan), 10-12 November
Stakeholder Meetings, Okayama (Japan), 4-8 November



1. 意義・目的

2002年, ヨハネスブルグ・サミットにおいて小泉総理(当時)が提案し、同年の国連総会で「国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)」が採択された。UNESCOと日本政府の共催で開かれる今次会議では、**2005年から2014年までのDESD活動を振り返るとともに、2015年以降のESD推進方策を議論。**

2. 日時・場所

(1) 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合



ESD
AICHI-NAGOYA

- ・時期: 2014年11月10日(月)~12日(水)
- ・場所: 愛知県名古屋市
- ・閣僚を含む1,000名程度の参加を想定。

(2) ステークホルダー会合



- ・時期: 2014年11月4日(火)~8日(土)
- ・場所: 岡山県岡山市
- ・若者, 学生, ESDの実践者等が参加。

※持続可能な開発のための教育(ESD): Education for Sustainable Development



世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

つまり、**ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育**です。

※出典:「日本ユネスコ国内委員会」webサイト

サイドイベント： 「持続可能な開発のための教育とジェンダー格差の是正」 ～ポスト2015教育アジェンダに向けて～

1. コンセプト

ESDの実現 → 来年から拡充
強靱で、調和のとれた、持続可能な社会
の担い手を育む教育



必要条件

UNESCO推進「万人のための教育」の達成



普遍的な初等教育
ジェンダー平等



ミレニアム開発目標

- 各地域における活動家による、持続可能な社会の担い手を育む教育(ESD)の推進の現状をレビュー
- 2015年よりESD推進を担うグローバル・アクション・プラン(GAP)の展望を描く

2. 参加者



シャバナ・バシージ=ラシーフ
アフガニスタン指導者学院院長



横関祐見子
ユニセフ中西部アフリカ地域
教育アドバイザー



黒田一雄
早稲田大学大学院
アジア太平洋研究科教授

3. 開催日時・場所

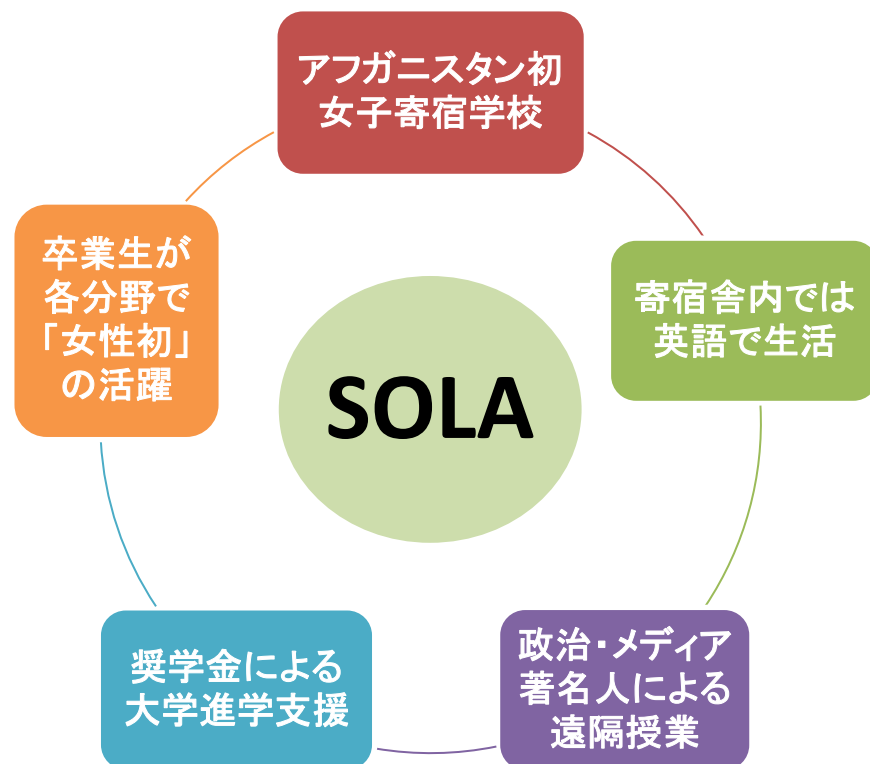
11月10日 12:15-13:45
於：名古屋国際会議場

シャバナ・バシージ＝ラシーフ アフガニスタン指導学院(SOLA)院長招へい



1. これまでの活動

- タリバン政権下で男装して通学。
- 高等教育を米国で受けつつ、アフガニスタンにおける女性教育推進のための団体を創設。
- 卒業後アフガニスタンに帰国し、School of Leaders, Afghanistan (SOLA)を設立。



2. 関連イベント日時・場所

サイドイベント「持続可能な開発のための教育とジェンダー格差の是正」

～ESD関係者によるパネルディスカッション～

11月10日(月) 12:15-13:45 於:名古屋国際会議場

学生との対話

～学生時代からの活動を現役学生と共有～

11月10日(月) 15:00-17:00 於:名古屋大学大学院

国際協力関係者討論

～国連機関, NGO, 政府機関関係者との意見交換～

11月11日(火) 15:00-17:00 於:外務省